

# ロボ手術で負担少なく

製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）主催の「第51回市民公開がんセミナー」が5日、室蘭市知利別町の同病院がん診療センターで開かれ、参加者は肺がんと内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた手術について理解を深めた。（北川誠）

## 製鉄記念室蘭病院 市民公開がんセミナー



肺がん手術について語る長谷科長

呼吸器外科の長谷龍之介科長はデータを示しながら「肺がんは日本で最も多くの人命を奪っている病気で、北海道は全国1位の死亡率。西胆振の肺がん死亡率は北海道平均よりも高い。当院でも肺がんの手術数は増加している」と説明。このほか、一般的な開胸手術や胸腔鏡手術は傷が大きく、術後の回復の遅れや合併症のリスクが高いことを紹介した。

同病院が胆振管内で唯一導入しているダヴィンチは、①傷が小さく済むため体への負担が少ない②鮮明な3次元画像で確認できる③精密な動きを再現できる―が特長。長谷科長はダヴィンチでの手術の様子を動画で紹介しながら「ロボット手術は患者の体の負担を少なくすると同時に、より精密な操作が可能」とまとめた。

次回は7月11日、外科・消化器外科の仙丸直人副院長が「大腸がんとダヴィンチ手術」をテーマに講演する。

胆振で唯一導入「ダヴィンチ」紹介